

教育委員会決定
平成19年9月21日

帯広市東地区中学校適正配置実施計画

平成19年9月

帯広市教育委員会

目 次

はじめに	1
1．学校の歴史	1
2．学校の現状と将来見通し	1
(1) 生徒数の推移と将来見通し	
(2) 通学区域の状況	
(3) 学校施設の状況	
(4) 隣接校の状況	
(5) 小学校区の状況	
3．適正配置の必要性	4
4．適正配置の内容	4
(1) 適正配置の検討	
(2) 統合の方法及び実施時期	
(3) 新通学区域及び統合新校の位置	
(4) 統合新校の学校規模の見通し	
(5) 特別支援教育への対応	
(6) 適正配置の円滑な実施	
(7) 学校施設の整備	
5．統合新校のめざす姿	6
(1) 「基礎・基本の確実な定着を図り、自ら学び自ら考える力を育てる」	
(2) 「様々な触れ合いの中で、多様な人間性や社会性など豊かな心を育てる」	
(3) 「心身の健康・安全についての理解を深め、健やかな体を育む」	
(4) 「家庭・地域と連携した開かれた学校づくりを進める」	
6．歴史と伝統の保存	7
7．既存施設・用地の利活用	7
(1) 校舎・体育館	
(2) 学校用地	
(資料) 東地区中学校通学区域図	8

はじめに（この計画の位置付け）

帯広市教育委員会では、児童生徒数の減少による学校の小規模化や学校規模格差の拡大に対応し、良質な教育環境を確保するため、平成 17 年 5 月に市民有識者らによる「帯広市小中学校適正配置等検討委員会」を設置して検討を行うとともに、この報告結果を受けて、平成 18 年 9 月に「帯広市立小中学校の適正規模及び適正配置に関する基本方針」を決定しました。

「帯広市東地区中学校適正配置実施計画」は、基本方針の中の適正配置計画に基づき、関係小中学校の保護者や町内会等を対象に地域説明会を実施し、地域の理解を得て策定したものであります。

1. 学校の歴史

東地区では、当初帯広第一中学校の通学区域であったところから、昭和 23 年 4 月 1 日に帯広第三中学校が分離開校し、さらに、昭和 36 年 4 月 1 日には帯広第六中学校が帯広第一中学校、帯広第三中学校から分離開校して現在の校区が形成されました。

帯広第三中学校は、開校当初は生徒数 894 名、16 学級、教職員 22 名でスタートしましたが、昭和 26 年度には帯広第四中学校の開校により通学区域の一部を変更するなど、5 度の通学区域変更を経て現在の校区が形成されました。

また、帯広第六中学校は、開校当初は生徒数 721 名、16 学級、教職員 22 名でスタートしました。昭和 59 年度には帯広第三中学校との通学区域の一部見直しを行い、現在の校区が形成されました。

2. 学校の現状と将来見通し

(1) 生徒数の推移と将来見通し

帯広第三中学校は、昭和 31 年度に生徒数 1,493 名、27 学級とピークを迎えましたが、その後、通学区域の分離などにより生徒数は減少を続け、平成 19 年 5 月 1 日現在では普通学級で生徒数 297 名、9 学級、特殊学級では、知的学級 18 名 3 学級、情緒学級 11 名 2 学級となっています。

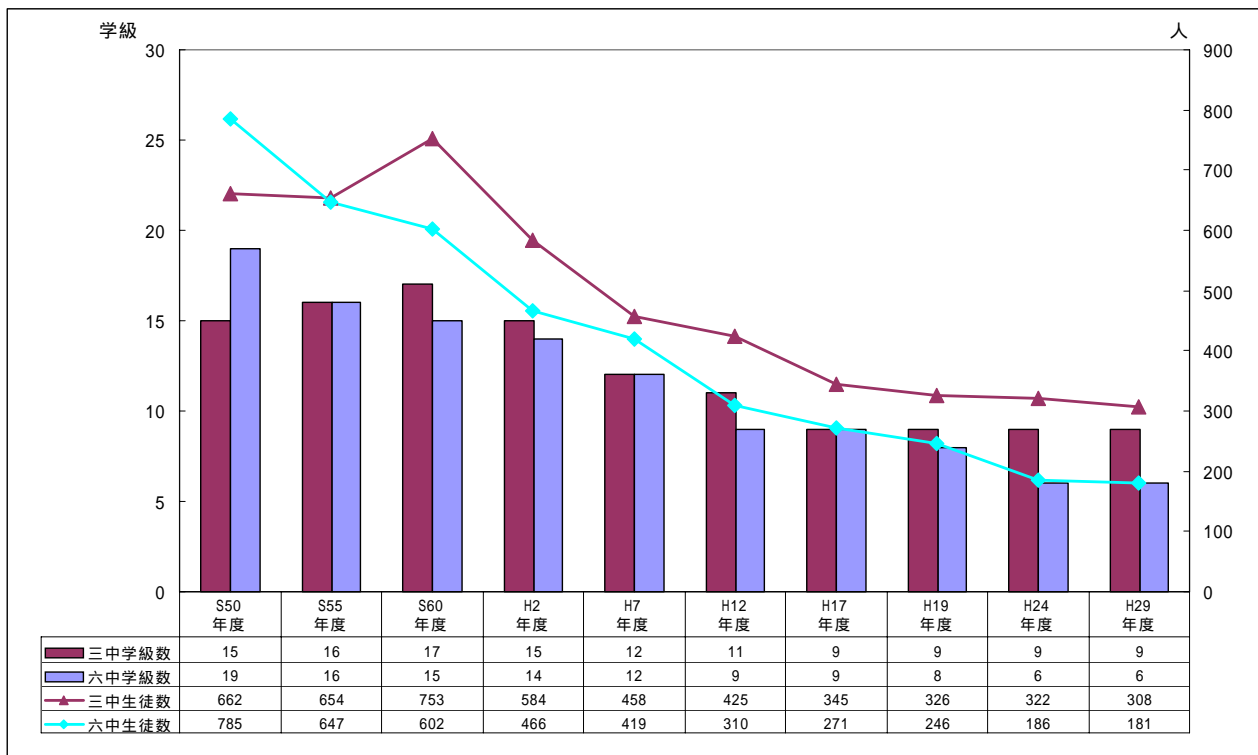
帯広第六中学校は、昭和 52 年度に生徒数 843 名、21 学級とピークを迎えましたが、その後、生徒数は徐々に減少を続け、平成 19 年 5 月 1 日現在では生徒数 246 名、8 学級となっています。

両校の生徒数及び学級数の将来見通しは、帯広第三中学校が現状とほぼ同規模のまま推移する一方で、帯広第六中学校ではさらに小規模化が進行し、生徒数が 200 人を下回り 6 学級となることが見込まれています。

表－1 平成 19 年 5 月 1 日現在の生徒数 (単位:人、学級)

学校名	普通学級					特殊学級 (知的、情緒、病弱)
	学年	1 年生	2 年生	3 年生	計	
第三中	生徒数	99	95	103	297	29
	学級数	3	3	3	9	5
第六中	生徒数	67	96	83	246	-
	学級数	2	3	3	8	-

図一 1 帯広第三中学校・帯広第六中学校の生徒数・学級数の推移と将来見通し (H19. 5. 1 現在)



(2) 通学区域の状況

東地区の通学区域は、北は北 2 丁目（十勝川）から南は南 25 丁目まで、東は札内川から西は JR 根室本線と帯広川との橋梁（西 12 条南 4 丁目付近）までとなっており、区域内は 192 町内会と 7 連合町内会に分かれています。

帯広第三中学校と帯広第六中学校の通学区域はおおむね南北境界が南 10 丁目通と営林局通、東西境界は大通により分かれており、東地区内のほとんどの通学区域が帯広第三中学校を中心とする半径 2 km の圏内に入っています。

帯広第三中学校の通学区域は、帯広駅周辺の中心市街地が含まれており、また、帯広小学校の西側の地域は通学距離 3 km を越えるなど広範囲に渡ることから、西 5 条より西側の地域、及び光南小学校より南側の地域は自転車通学が可能な地域となっています。

(3) 学校施設の状況

帯広第三中学校

校舎 ~ 現在の校舎は、昭和 54 年 3 月に完成し、平成 19 年 5 月 1 日段階では築後 28 年が経過しており、耐震強度も劣っていることから、耐震補強が必要な校舎です。また、普通教室として使用可能な教室数は最大で 12 教室です。

体育館 ~ 現在の体育館は昭和 56 年 12 月に完成し、築後 25 年が経過していますが、耐震強度は確保されています。

帯広第六中学校

校舎 ~ 現在の校舎の中心となる普通教室棟は平成 5 年 12 月に改築工事を行い、北側の特別教室棟は昭和 50 年 11 月に西側の理科室等の改築、昭和 52 年 11 月に東側の美術室等の改築工事が行われました。平成 19 年 5 月 1 日段階で築後 13 年が経過

しておりますが、一部に築後 30 年を越える建物もあり、耐震補強が必要となっております。また、普通教室として使用可能な教室は最大で 12 教室です。校舎の整備としては、校内 LAN により情報関係の整備がされています。

体育館 ~ 現在の体育館は昭和 38 年 9 月に完成し、築後 43 年が経過しています。市内では最も古い体育館であり、老朽化が著しく、耐震強度が劣っています。

(4) 隣接校の状況

帯広第三中学校に隣接する中学校は、帯広第一中学校、帯広第四中学校、帯広第五中学校、帯広第六中学校の 4 校であり、帯広第六中学校に隣接する中学校は、帯広第一中学校、帯広第三中学校の 2 校です。いずれの学校とも、将来的に生徒数は減少する見通しとなっています。

表-3 隣接校の現況と将来推計 (単位：人、学級)

学校名	平成 19 年度		平成 29 年度		学校間の 距離(三中)	学校間の 距離(六中)
	生徒数	学級数	生徒数	学級数		
帯広第三中学校	297	9	308	9		約 1.1km
帯広第六中学校	246	8	181	6	約 1.1km	
帯広第一中学校	561	16	459	13	約 4.8km	約 4.8km
帯広第四中学校	435	12	299	9	約 3.3km	約 4.4km
帯広第五中学校	392	13	302	9	約 3.9km	約 5.0km

※平成 19 年 5 月 1 日現在。生徒数・学級数には特殊学級の生徒数を含んでいない。

(5) 小学校区の状況

帯広第三中学校の通学区域は 3 つの小学校の通学区域、帯広第六中学校の通学区域は 2 つの小学校の通学区域からなっています。

表-4 小学校の通学区域別による第三中及び第六中の生徒数 (平成19年5月1日現在)

(単位：人)

中学校	区 分	1 年生	2 年生	3 年生	計
第三中	帯広小学校区域	15	28	13	56
	光南小学校区域	55	39	56	150
	柏小学校区域	29	28	34	91
	小 計	99	95	103	297
第六中	柏小学校区域	30	50	40	120
	東小学校区域	37	46	43	126
	小 計	67	96	83	246
合 計		166	191	186	543

3. 適正配置の必要性

東地区では、出生数の減少や地区外への転出などにより、地区全体では将来的に生徒数が減少する見通しとなっています。帯広第三中学校では、生徒数が現状とほぼ変わらず小規模校のまま推移する一方、帯広第六中学校では生徒数が200人を下回り、1学年2学級、全校で6学級となるなど、さらに小規模化が進むことが予想されます。

このような学校の小規模化は学校生活や学習環境などに様々な影響を与えることが想定されることから、東地区における学校の適正配置によって「帯広市立小中学校の適正規模及び適正配置に関する基本方針」に基づく「適正な学校規模」を確保し、生徒自身の興味・関心を生かして自ら学び自ら考える力を育むとともに、多様な人間関係の中で主体的によりよい生活を築こうとする社会性の育成を図るなど、活力ある学校づくりを進める必要があります。

4. 適正配置の内容

- ①平成22年度末で帯広第三中学校及び帯広第六中学校の両校を閉校し、平成23年4月から統合新校を開校します。
- ②統合新校は、帯広第三中学校の位置とし、既存の校舎・体育館を改修・増築して使用します。
- ③統合新校の通学区域は、両校の通学区域を合わせた区域とします。

(1) 適正配置の検討

帯広第三中学校及び帯広第六中学校について、隣接する学校との通学区域の見直しについて検討すると、冬期間の通学条件を考慮した場合に適切な通学距離を確保できないことや、今後の生徒数の減少によって学校の小規模化が懸念されるなど、通学区域見直しによる学校規模の確保は難しい状況にあります。

東地区における生徒数は、帯広第三中学校、帯広第六中学校の両校を合わせても平成19年5月1日現在で543人であり、学級数に換算すると普通学級で15学級規模となります。今後、さらに生徒数が減少する見通しであることや両校とも隣接する学校との通学区域の見直しが困難であることを考慮すると、隣接する両校の統合により学校規模の適正化を図る必要があります。

(2) 統合の方法及び実施時期

東地区における中学校の適正規模を確保するため、帯広第三中学校及び帯広第六中学校の両校を統合することとします。また、統合の方法は、両校ともに閉校し、統合校を新しい名称の新設校として設置することとします。

統合の実施時期は、統合の準備や既存校舎の改修等に要する期間を考慮し、平成22年度末で両校を閉校し、平成23年4月から新校を開校することとします。

(3) 新通学区及び統合新校の位置

統合新校の通学区は、帯広第三中学校及び帯広第六中学校の通学区を合わせた区域とします。

統合新校の位置は、通学距離を考慮して新通学区内のほぼ中心的な位置にある帯広第三中学校の位置とします。また、校舎等の施設は、既存の帯広第三中学校の校舎を活用することとします。

統合新校の通学区のうち、通学に支障が生じる場合は、保護者の希望により近接する中学校への区域外通学の弾力的運用を行います。

(4) 統合新校の学校規模の見通し

帯広第三中学校と帯広第六中学校の統合により設置される新校の学校規模は、両校の平成 23 年度の生徒数の推計から、適正規模な学校規模である 15 学級を確保できる見通しとなっています。

平成23年度推計(平成19年5月1日現在) (単位:人・学級)

		第1学年	第2学年	第3学年	計
第三中学校	生徒数	118	107	100	325
	学級数	4	3	3	10
第六中学校	生徒数	69	52	77	198
	学級数	2	2	2	6
計	生徒数	187	159	177	523
	学級数	6	4	5	15

学校規模を比較するため、生徒数・学級数には特殊学級を含んでいない。

(5) 特別支援教育への対応

平成 19 年度からの特別支援教育の実施にあたり、国や道の動向を見極めながら、各種研修の充実による教職員の意識の高揚と指導力の向上を図るとともに、学校の体制整備に向けた必要な助言や支援を行います。

統合新校では、現在の帯広第三中学校に開設されている特別支援学級のうち、「知的学級」「病弱学級(院内)」についてはこれまで同様拠点校方式を継続します。また、「情緒学級」については、自校方式の趣旨を生かし、段階的に統合新校の対象生徒のための学級に移行します。

(6) 適正配置の円滑な実施

統合実施までに十分な検討期間を設けて、各小中学校の保護者や学校・市教育委員会などからなる「(仮称)東地区中学校統合準備協議会」を設置し、校名・校歌・校章、廃校となる学校の歴史の保存方法、通学の安全対策、PTAの再編など両校の統合による新校への円滑な移行に向けて協議します。

生徒の心理的な不安を解消するため、生徒にとって相談しやすく、また、迅速かつ適切に指導できる環境づくりに向け、教員資格を有する補助員を1年間に限り1名配置することや教職員による教育相談体制の充実、「心の教室相談員」の配置の充実などに取り組みます。また、統合後の人間関係等が円滑に形成されるよう、学校行事や部活動などを通じて学校間の事前交流に積極的に取り組みます。

統合後の授業や生徒指導が円滑に行われるよう、学校間において事前に総合的な学習の時間や選択教科などの整合性や学習の評価規準を統一することなど十分な連携を図るとともに、統合時において継続的に教職員を配置するなどの配慮により急激な教育環境の変化に対応します。

(7) 学校施設の整備

統合新校の開校に合わせ、現在の帯広第三中学校校舎の耐震化や不足する教室の増築などを実施します。また、これら施設の改修に併せて校内LANの整備や障害者用エレベーターの設置の検討を行うなど、安全と機能の両面を兼ね備えた充実した教育環境を整備します。

5. 統合新校のめざす姿

統合新校については、帯広第三中学校と帯広第六中学校の歴史と伝統を基礎としながら、適正規模の確保による生徒数や教員数の増加を通して、教科指導や部活動における多様な取り組みや、進路・生徒指導などにおける綿密な対応など教育環境の充実を図り、知・徳・体の調和のとれた生徒を育成し、市内中学校をリードする学校づくりをめざします。

(1) 「基礎・基本の確実な定着を図り、自ら学び自ら考える力を育てる」

各教科の指導においては、チームティーチングや少人数指導など指導体制の工夫改善を積極的に行い、個に応じた指導を進めることによって基礎・基本の確実な定着を図り、確かな学力の向上を図ります。

生徒の興味・関心を生かした多様な選択教科を開設するなど体験的な学習や問題解決的な学習を進めます。また、教室の中だけでなく、各種の特別教室や時には地域に出かけて学ぶなど学びの場の拡大を図り、自主的・自発的な学習を促すことで、自ら学び自ら考える力を育みます。

学校図書館の蔵書を充実するとともに、学校図書館活性化支援事業を拡充し、学校図書館の活性化を図る中で、生徒の調べ学習や読書活動を通じた知的好奇心や知的探究心の向上を図ります。

(2) 「様々な触れ合いの中で、多様な人間性や社会性など豊かな心を育てる」

望ましい集団活動や学校行事、新しい学校ならではの生徒会活動の中で、正義感や倫理観とともに他人を思いやる心を育み、いじめのない学校づくりをめざします。

心の教室相談員やスクールカウンセラーと連携して教育相談体制を充実し、一人一人の生徒の心に寄り添う、明るく元気な学校づくりをめざします。

(3) 「心身の健康・安全についての理解を深め、健やかな体を育む」

家庭や地域と連携して食育を推進し、心身の健康増進を図るとともに、小学校と連携しながら生徒の安全安心への取り組みを進めます。

生徒の希望に添った部活動の設置により、日常的な運動の継続を図るとともに、情操や表現力の育成を図ります。

(4) 「家庭・地域と連携した開かれた学校づくりを進める」

学校評価を積極的に推進し、学校教育に対する期待を的確に把握して教育活動の改善を図ります。

生徒、保護者、地域関係者、学校関係者などへの教育内容・活動の公開を進め、学校の教育活動に関する情報の積極的な提供を図ります。

地域における人材の活用や異世代交流の実施などの学校支援を通じ、地域全体が生徒を育てていく機運を高め、開かれた学校づくりを進めます。

6. 学校の歴史と伝統の保存

閉校となる帯広第三中学校と帯広第六中学校の歴史と伝統を保存するため、統合新校に校旗・校章などをはじめ記念となる品々を保存し展示する場を設置します。

7. 既存施設・用地の利活用

(1) 校舎・体育館

閉校となる帯広第六中学校の校舎のうち、耐震性が劣る平成5年度より以前に建設された部分及び老朽化して改築時期を迎えている体育館は、耐震化に多額の経費を要することから解体処分します。

また、平成5年度に改築された校舎部分は、国の補助事業等による処分制限期間内であるため、補助金の返還などを要しない他の施設への転用などを基本として全庁的に活用方法を検討します。

(2) 学校用地

閉校となる帯広第六中学校の学校用地のうち、残存する校舎に関する部分を除いた残りの土地については、統合新校の整備財源として、売却を基本に活用方法を検討します。

東地区中学校通学区区域図

